

2014年7月7日

日本バプテスト連盟諸教会・伝道所のみなさま

セクシュアル・ハラスメント防止・相談委員会

東京都議会議長へ要望書を送付した件について

聖名賛美

この度、セクシュアル・ハラスメント防止・相談委員会は議員が性差別発言による加害を行ったのに適切な対処を怠ったままことを終結させようとしている東京都議会に対して、不規則発言を行ったすべての議員の特定と公の謝罪、ふさわしい処分を行い、再発防止のための努力をするようにとの要望書を送りました。

すでに多方面から批判が続出しているように、発言を認めた議員の発言内容、および釈明の言葉に表れる人権意識の欠如にも多くの非難すべき点がありますが、都議会が明らかに被害を受けて苦しむ議員を泣き寝入りさせるような幕引きをすることは断じて許されることではありません。

セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ・性暴力）は差別意識に基づく人権侵害ですから、加害が発生したとき見過ごしにしてはなりません。基本的には、相手の人格に対して尊重や尊敬のないところから発生し、さらにしばしば相手を選んで行われる行為なので、それを見過ごしにすることは結果的に加害を助長することになります。

今回、被害にあった女性議員はすぐに的外れなバッシングに晒されました。被害に被害が重なり、心はずたずたに傷ついたことでしょう。うやむやな幕引きをすることはその上さらに傷を深くすることにほかなりません。被害議員の名誉回復のためにも、すみやかに、当委員会の要望に沿った解決がなされる必要があります。

都議会であれ国会であれ公の場所で、あるいは私的な場所で、セクシュアル・ハラスメントは行われてはならない人権侵害であるということを訴えます。議員という立場にありながら、加害者のあまりにも乏しい人権意識に驚きますが、一刻も早くその向上にとりかからなければ、おそらくは氷山の一角であろうこのような性差別発言は減っていかないでしょうし、被害者も減らないでしょう。

どうか、全国の諸教会、伝道所のみなさま、同じ祈りを共有していただきたくよろしくお願い申し上げます。

在主

2014年6月28日

東京都都議会議長 吉野利明 殿

日本バプテスト連盟セクシュアル・ハラスメント防止・相談委員会

## 要望書

都議会本会議における女性議員への性差別発言について曖昧な問題解決を図らず、当該のすべての議員の公式の謝罪と処分、および議会の人権意識の見直しを行って下さい。

6月18日の東京都議会において、塩村文夏議員（みんなの党 TOKYO 会派）が一般質問中に受けた野次は、性差別発言として非難されるべきものです。すでに鈴木章浩議員（当時自民党会派）が公に謝罪しましたが、他に複数の議員から野次が飛んだことについては追及せず、25日の本会議終了において幕引きとするという意向に抗議致します。鈴木議員からは発言の理由として、「早く結婚して欲しかったから」という理由付けがなされていましたが、それとて言わずもがなの内容です。結婚制度を無批判に是とする意識に基づく他者の生活への干渉であり、人権意識の低さを表すものであるからです。

セクシュアル・ハラスメントは性差別意識に基づく人権侵害であり、都議会で許されるはずもありません。時代錯誤な理解による発言と、擁護的とも言える議会の対応や処理の仕方に憤りを覚えます。国際的に非難を受けているのは当然で、恥ずかしいことです。

結婚するかしないかは個人の自由であり、ましてや子どもを産むか産まないか、他人が干渉すべき事柄ではないことは当然です。周知の事実ですが、子どもを産みたいのに産めないという場合、「女性にのみその身体的原因がある」ではありません。そしてどの性であっても、そのためにアイデンティティーを否定されるものではありません。さらに不妊治療を続けても望んだ効果がなくて悩んでいる人はたくさんいます。「産めないのか」という発言は鈴木議員の認めた「早く結婚したらいいじゃないか」という発言よりも、さらに悪質な人格否定です。

鈴木議員以外からとされた野次について当該の人物が名乗りでるよう求めた議案を、25日、最大会派である自民党会派は否決したと報道されました。そこで幕引きを図るのは、明らかな人権侵害があったのに問題から逃げることであって、決して許されてはなりません。都議会がさらに恥をかくことです。速やかに人物を特定した上、被害者となった塩村議員に対する公式の謝罪と全加害議員への適切な処分、再発防止策の真剣な検討がなされるべきです。

以上、都議会の態度決定について要望致します。